

清流の国ぎふ

# 地歌舞伎 勢揃い公演

飛騨市河合町歌舞伎保存会 (飛騨市)

河合町の地歌舞伎の歴史は、文化六年(一八〇九年)頃から始まったといわれています。特に明治中期から昭和三十年代にかけては、戦時下を除き、地域の各神社で若社中を中心とした奉納歌舞伎が盛大に行われていましたが、過疎化や娯楽の多様化などにより衰退していきました。

昭和五十四年、当時の河合村に伝統芸能保存会が設立され、その民謡部を主体とした地歌舞伎同好会が、河合村産業文化祭においてミニ歌舞伎を上演しました。これが契機となつて河合の地歌舞伎が本格的に復活し、文化協会の設立と村芝居公演の開催を経て、平成十九年二月に「河合町歌舞伎保存会」が設立され今に至ります。

当保存会では、衣裳の不足や三味線・太夫の不足といった諸課題を他の保存会のご協力や各位のご指導で乗り越えながら、年一回の定期公演「河合町地歌舞伎公演」を継続開催するとともに、近年は、所作や化粧の講習会なども開催し、活動に興味を持った若い世代の加入にも繋がっています。会員誰もが、歌舞伎の楽しさ・魅力に取りつかれ、経験を重ねるほどにその「奥深さ」をひしひしと感じながら、河合の地歌舞伎の保存・継承に取り組んでいきます。



鳳凰座歌舞伎保存会 (下呂市)

下呂市御厩野地区では、江戸時代から農山村の唯一の娯楽として地歌舞伎が盛んで、「御厩野の芝居」と呼ばれ親しまれてきました。当保存会の拠点である芝居小屋「鳳凰座」は、当地区日枝神社にあった拝殿型の舞台を文政十年(一八二七年)に現在地へ移築し、その後幾度かの大改装を経て、客席や回り舞台、両花道、すっぽん、奈落などを持つ現在の姿となりました。今では所蔵する台本と共に、岐阜県重要有形民俗文化財に指定されています。

保存会としては、昭和三十六年に鳳凰座村芝居保存会現 鳳凰座歌舞伎保存会が結成されて以降、毎年五月三日、四日に定期公演を行っており、記録のある昭和四十六年からこれまでに八十外題二百余幕という多くの幕を上演しております。

芝居小屋があり、舞台をつくる者があり、それを見ていただくお客様がいる。この三つが揃って鳳凰座での芝居は続いてきました。鳳凰座の伝統を後世に引き継いでいききたいと日々活動しております。



新型コロナウイルス感染予防対策について 安心して参加いただくために、皆様のご協力をお願いします。

- ・発熱や風邪症状のある方は、参加をお控えください
- ・マスク着用の厳守(マスク非着用の方はご入場できません)
- ・手指消毒及び検温の実施(37.5℃以上の方はご入場できません)
- ・ソーシャルディスタンスの確保
- ・出演者への声援(大向こうエリアを除く)や歌唱、入り待ち、出待ちの禁止

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況により公演の内容(大向こう・おひねりを含む)を変更したり、中止となる場合がございます。

ぎふ清流文化プラザ YouTubeチャンネル

涙あり笑いあり、色とりどりの演目を「ぎふ清流文化プラザ YouTube チャンネル」でご覧いただけます。

地歌舞伎勢揃い公演の動画を配信中!



地歌舞伎とは

地歌舞伎とは、地元の素人役者たちによって演じられる、地域に根付いた歌舞伎です。江戸や上方で盛んであった歌舞伎は、地方を巡るプロの旅役者によって全国各地に広がり、それに憧れた地方の人々が神社の祭礼で演じたり、芝居小屋を造ったりと、自ら楽しむようになりました。現在、岐阜県には30を超える地歌舞伎保存団体が存在し、9軒の芝居小屋が各地に現存しています。岐阜県は全国有数の地歌舞伎が盛んな地であり、芝居小屋をはじめ、毎年各地で定期公演が開催されています。江戸時代から伝わる演目や振付が大切に受け継がれ、親しまれている岐阜県の地歌舞伎をご堪能ください。

「清流の国ぎふ」文化祭2024さきかけプログラム

# 地歌舞伎 勢揃い公演

2022年11月27日(日)

◆会場 ぎふ清流座(ぎふ清流文化プラザ 長良川ホール)

◆開演 14時00分(開場13時00分)

◆上演外題・出演

14時00分(60分)

青砥稲花紅彩画 新松屋の場

飛騨市河合町歌舞伎保存会(飛騨市)

15時20分(70分)

八嶋日記後日譚 日向島

鳳凰座歌舞伎保存会(下呂市)

終演 16時30分(予定) 演目等は変更となる場合がございます。



飛騨市河合町歌舞伎保存会



鳳凰座歌舞伎保存会

イヤホン同時解説

演目の見どころやあらすじについて、分かりやすく解説します。

歌舞伎ソムリエ おくだ 健太郎氏



第39回国民文化祭 第24回全国障害者芸術・文化祭 「清流の国ぎふ」文化祭2024

ともに・つなぐ・みらいへ～清流文化の創造～ 2024年10月14日(月・祝)～11月24日(日)

主催/岐阜県・(公財)岐阜県教育文化財団 協力/岐阜県地歌舞伎保存振興協議会





あおとぞうしはなのにしきえ はままつや ば  
**青砥稿花紅彩画 浜松屋の場 飛騨市河合町歌舞伎保存会(飛騨市)**

鎌倉雪ノ下にある呉服屋「浜松屋」に、二階堂信濃守の家中を名乗る早瀬水主の息女 お浪と若党 四十八が、婚礼の衣裳を見に訪れます。

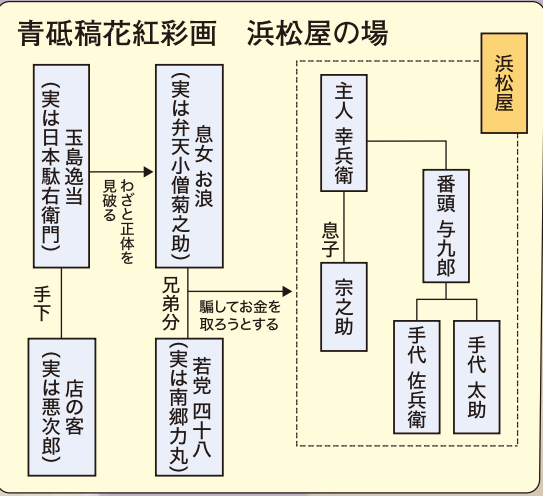
様々見て注文し、後に代金を持つてくると立ち去ろうとするお浪らに、番頭と九郎が「懐に入ったものを出すように」と言い、赤い鹿の子の布を出させます。盗人として、お浪らを寄つてたかつて打ち据えたところで、その布は他の店で買った物ということが判明します。

大変な粗相をしたと主人の息子 宗之助が詫言いますが、怒つた四十八は嫁入り前の息女の額に傷までつけられたと、主人 幸兵衛に百両を要求します。法外な金を要求する四十八に対し、浜松屋に呼ばれた鳶の頭 清次も憤慨して啖呵を切ります。ことを穏便に済ませようと幸兵衛が百両渡したその時、店の奥から二階堂信濃守の用心役 玉島逸当という侍が現れます。逸当は家中に早瀬水主という者はおらず、腕にちらりと見えた彫り物からすると、お浪はどうやら男のようだと二人の悪事を見破ります。

見破られた二人は、女装の盗賊 弁天小僧菊之助とその兄貴分 南郷力丸であることを明かし、居直つて悪態をつきます。傷の膏葉代として十両を受取り、二人はようやく去つていくのでした。

◆配役

- 早瀬の息女 お浪 (実は弁天小僧菊之助) 南波 誠示郎 (だち歌舞伎保存会)
- 若党 四十八 (実は南郷力丸) 遠山 明良 (だち歌舞伎保存会)
- 玉島逸当 (実は日本駄右衛門) 畑 美貴
- 浜松屋主人 幸兵衛 ぬのまた まさや
- 浜松屋息子 宗之助 渡辺 稔
- 浜松屋番頭 与九郎 おはたけ つや
- 浜松屋手代 佐兵衛 はままつ やてだい さへえ
- 後見 松川 竜也
- 裏方 中川 ひとみ
- 総括 曽我 軍二
- 濱松屋手代 太助 おおや みさと
- 大家 美里
- 鳶の頭 清次 よしざわ だいし
- 吉澤 大志
- 吉真 悠陽 (中学二年生)
- 井下 英人
- 店客 (実は悪次郎) いした ひでと
- 下出 ひで子
- 手代 太助
- 手代 佐兵衛
- 宗之助
- 兄弟分 (実は南郷力丸) 若党 四十八
- 玉島逸当 (実は日本駄右衛門) 玉島 逸当
- 手代 (実は悪次郎)
- 店客 (実は悪次郎)



やしまにつきごじつのはなし ひゆうがじま  
**八嶋日記後日譚 日向島 鳳凰座歌舞伎保存会(下呂市)**

平家の流人 悪七兵衛景清は、源頼朝を討とうとして果たさず、ついには世をすね、人を恨んで日向島に渡り、亀七として小島の荒磯に佇しい一人住まいをしています。秩父庄司重忠は、源氏の将ですが、景清の本性を探ろうと船頭 藤作と名乗つて景清に接近します。

こうしたところへ、思いがけず景清の娘 人丸が、まだ見ぬ父を慕つて、はるばると尋ねてきます。かたくなな景清は、心を鬼にして親と名乗らず追い返しますが、自分に逢いに来たことで景清の娘と悟られ、源氏方に囚われては名乗り合つたも同然と、人丸の後を追おうとします。

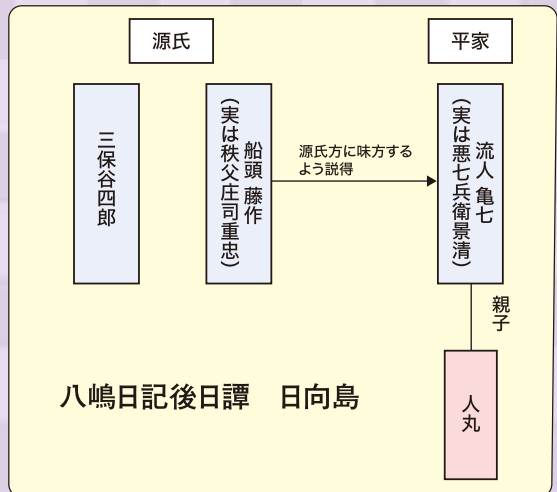
この対面を見ていた重忠は、景清であることを確信し、源氏方に味方するようにと説得します。景清は、頼朝の情けを感じて味方になります。

そこに、壇ノ浦にて景清に後れをとつた源氏の侍、三保谷四郎が現れ、景清と争いますが勝負がつかず、この場はいったん別れます。


◆配役

- 流人 亀七 (実は悪七兵衛景清) 桂川 辰巳
- 景清 娘 人丸 河村 香那 (小学四年生)
- 三保谷 四郎 進藤 功
- 船頭 藤作 (実は秩父庄司重忠) 進藤 紀之
- 後見 河村 菜々子
- 裏方 進藤 征幸
- 総括 曽我 軍二
- 松田 典子
- 熊崎 亮太郎
- 田上 由夏
- 狂言方
- 中島 敏秋
- 金子 智樹
- 中川 ひとみ

※作中今日の人権感覚に照らして差別的ととられかねない語句の使用がありますが、江戸時代から伝わる地歌舞伎ならではの表現を尊重し、原作のままとしています。



**イヤホン同時解説**  
**おくだ健太郎氏**  
 名古屋市出身。早稲田大学政経学部卒業後、大歌舞伎のイヤホンガイド解説者としてデビュー。その後二十五年あまり、歌舞伎座や御園座などで解説員を歴任。また、歌舞伎ソムリエの呼称で、執筆や講演、YouTubeの発信など、幅広く活躍している。



- 協力
- 振付指導 松川 竜ノ介
  - 太夫 竹本 美芳
  - 三味線 豊澤 展八
  - 下座 長唄 杵屋 喜鶴
  - 鳴物 住田 喜久次
  - 笛 小野崎 隆賢
  - 顔師 市川 紫女舟
  - 着付衣裳 美濃歌 舞伎衣裳部
  - 林 まゆみ
  - 小川 厚子
  - 松川 竜ノ介
  - 市川 福升
  - 豊澤 展八
  - 杵屋 喜鶴
  - 住田 喜久次
  - 風川 辰次
  - 小野崎 隆賢
  - 市川 紫女舟
  - 美濃歌 舞伎衣裳部
  - 林 まゆみ
  - 小川 厚子